

松下幸之助記念志財団 研究助成  
研究報告

(MS Word)

【氏名】鳥飼 将雅

【所属】(助成決定時) 東京大学大学院 法学政治学研究科

【研究題目】集権化する権威主義体制における強い地方社会：ロシア連邦における連邦政府、地方政府、市郡政府の三層間関係の変容

【研究の目的】(400字程度)

ロシアにおける権威主義体制の確立とその定着に関して研究は多いが、近年体制が直面している地方からの不安定性を包括的に論じた研究は限定されている。本研究はその間隙を埋めるため、従来着目されてきた連邦政府と地方政府の関係に加えて、市郡政府と両者の関係も分析に加え、現代ロシアの中央地方関係が孕む不安定化の兆候について考察する。連邦政府と地方政府の関係を分析した場合、2000年代に入り連邦政府が進めてきた一連の集権化改革によって地方政府は自律性を失いつつある。しかし、連邦政府が地方政府をコントロールするようになった結果、現代に入り市郡政府と地方政府の間で不和が生じやすくなっている。これは、連邦政府が地方政府を統べる知事として、当該地方と結びつきの弱い知事(アウトサイダー知事)を配備することで、市郡政府との間に軋轢が生じているためである。このことを示すため、本研究はアウトサイダー知事の配備のパターンとその人事政策が地方の政治過程に与える影響を分析する。

【研究の内容・方法】(800字程度)

インターネット上の情報やこれまでにに行ったフィールドワークで得られた情報をもとに、知事と大都市の市長に関するデータセット、及び各大都市における人事制度の変化に関するデータセットを構築した。このデータを用いて、以下の3つの計量研究を行った。まず(1)アウトサイダー知事の配備がソ連解体以降、どのように増えてきたのかを調べた。より具体的には、各年代の連邦政府の地方政府に対する姿勢の変化と、アウトサイダー知事の配備の傾向の変化を時系列的に定性的に分析した。その結果、連邦政府が政治的影響力を増大させるにつれて、知事選挙の廃止などの公式制度の変化や、知事選挙における連邦政府の肩入れという非公式な方法を通じて、地方の利害を代表する地方ボスに代わって連邦に忠実なアウトサイダー知事を配備するという傾向があったことがわかった。次に、(2)アウトサイダー知事はどのような統治戦略をとるのか分析した。そのために、大都市における市長選出制度のパネルデータと知事の経歴のデータを用いて、市長選出が公選制から議会による任命制へと移行するタイミングに関して、計量分析を行った。分析の結果、アウトサイダー知事の下で、大都市の市長選出制度が公選制から議会による任命制へと変化しやすいことがわかった。アウトサイダー知事にとってより都合の良い市長を任命できるような議会による任命制を選択することで、より強い統治基盤を当該地方に築こうと画策する傾向があることが示された。最後に、(3)アウトサイダー知事選挙のパフォーマンスについて、選挙委員会から得られた連邦議会選挙と地方議会選挙の結果を用いて、分析した。重回帰分析、及び傾向スコアを用いた逆確率重み付け推定法を用いて分析したところ、アウトサイダー知事は選挙パフォーマンスが相対的に悪いこと、特に市長任命制へと移行した際にアウトサイダー知事選挙パフォーマンスの悪さが顕著に観察されることが示された。

【結論・考察】(400字程度)

計量分析の結果、以下の事実が明らかになった。(1)連邦政府は自らの権力が拡大していく中で、公式制度

の改革と非公式な制度運用によってアウトサイダー知事の配備を進め、(2)アウトサイダー知事も市長選挙の廃止という公式の制度の改革を通じて市郡政府のエリートをコントロールしようとする。対して、(3)アウトサイダー知事の配備は、市郡政府のエリートとの軋轢を生じさせることによって選挙パフォーマンスの著しい低下を招く。全体としては、連邦政府をはじめとした上位エリートは公式の制度、特に人事権の改革を通じて下位レベルのエリートを支配しようとする。それに対して下位エリートは非公式に抵抗し、選挙パフォーマンスに影響を与えることによって、体制の不安定化に寄与している。したがって、中央地方関係の観点からすると、アウトサイダー知事の配備は連邦政府にとって忠実な知事を置くという意味でのメリットと、体制の不安定化を招くというデメリットの双方を持つ諸刃の剣であることがわかった。